



祝心

村山市立袖崎小学校
学校だより
No.19

令和8年1月29日発行

卒業生の話から考える～創立記念集会～

1月16日(金)に124周年の創立記念集会が行われました。

お祝いの気持ちをこめて校歌を歌った後、記念講話として、本校卒業生である永井用務業務員、下田業務支援員から、それぞれの小学生時代の話を、そのころの写真とともに聞きました。



まず、下田さんから、平成時代の小学生の遊びや流行について聞きました。学区内の遊び場や遊び方は、今と変わらないものや変わったものがあること。学校では、自分たちで考えた遊びをしていて、放課後は学童ではなく、缶蹴りなどを遊んでいたこと。平成のころに流行していたものが、最近もう一度流行ってきたこと。子どもたちは写真を見て、「知ってる！」と興奮気味でした。戻ってきた流行の今と昔の違いにも興味をひかれたようです。最後に、「家族に小学生の頃の話を聞くのも楽しいですよ。ぜひ聞いてみてください。」と呼びかけがありました。



次に永井さんから、昭和時代の学校生活や放課後の遊び方、昔の校舎のことについて聞きました。児童が400人で、登校班の人数が今よりずっと多かったこと、短靴を履いて登校していたこと。放課後は、上の学年から教えてもらって、同じ地区の人と集団で遊んでいたこと。地区ごとの対抗意識が強くて、挑戦状を送ってソフトボールの試合を申し込んだこと。遊び道具は自分で作ったこと。校舎の廊下には、センターラインが引かれていたこと。教室では石炭ストーブがたかれていて石炭当番があったこと…。最後に、体育館にあるように「やさしい子ども かしこい子ども たくましい子ども」になってほしい、というメッセージが伝えられました。



同じ学校でも、時代とともに姿や生活は変わってきました。しかし、そこで学び、遊び、友達と過ごす楽しさは、今も昔も変わらず受け継がれています。

先輩の言葉を聞き、子どもたちは自分たちが学ぶこの学校の歴史を身近に感じ、これから学校生活を大切にしようとする気持ちを新たにすることができました。

そば打ちに挑戦！



1月21日(水)、そば匠の佐藤さんとゆきむろそばの赤塚さんを講師にお迎えし、5,6 年生がそば打ち体験を行いました。粉に水を加えてこねるところから始まり、均一にのばし、包丁で細く切るまで、一つ一つの工程に真剣な表情で取り組む姿が見られました。「力加減が難しい」「同じ太さに切れた！」と、試行錯誤しながら学ぶ姿から、食べ物ができるまでの手間や工夫を実感する貴重な時間となりました。



歩けなかった朝が教えてくれたこと

— 安全確保の中で見えた、徒步登校の価値 —

◇ 安全は、何よりも優先されるもの

熊の出没に際しては、子どもたちの安全を最優先に、多くのご家庭や地域の皆様にご理解とご協力をいただきました。見守りや送迎など、臨機応変なご対応に、心より感謝申し上げます。また、現在も、安全確保のため、ご家庭の判断で車による送迎を続けておられる場合があることも承知しています。安全を第一に考えた選択は、どれも大切にされるべきものです。本校では、今後も状況を注視しながら、柔軟に対応してまいります。

一方、今回、一時的に徒步での登校が難しくなったことで、改めて、歩いて登校する時間の意味を見つめ直す機会を得ることができました。

◇歩く登校は、心を整え、体を目覚めさせる一日のスイッチ

① 体と脳が自然に目覚める

朝の徒步は、軽い運動。朝の光を浴びて一定時間歩くことで、血流がよくなり、心が安定し、集中力が増すことが分かっています。

「朝から体を動かす＝学びの準備運動」です。

② 生活リズムが整う

毎朝決まった時間に歩くことで、起きる・食べる・動く・学ぶのリズムが安定します。

結果として、夜も眠りやすくなる好循環が生まれます。



③ 体力・持久力が自然につく

特別なトレーニングをしなくとも、毎日の積み重ねで足腰・持久力・バランス感覚が育ちます。ケガをしにくい体づくりにもつながります。

④ 交通安全の力が身につく

横断歩道の渡り方、車の音への注意など、実体験を通して身につく安全意識は、一生ものです。

⑥ 「学校へ向かう心の準備」ができる

家から学校へ歩く時間は、気持ちを切り替える大切な移行時間。

気分を整えてから教室に入ることで、落ち着いて一日を始められます。

◇ 日常の中にあった、かけがえのない学び

登校途中の友達との会話、季節の変化への気づき、地域の方との挨拶は、「考える」「感じる」「話す」心の成長の時間です。歩くことで生まれていた何気ない経験が、子どもたちの感性や社会性を育てていたことを、改めて感じています。

◇「歩ける日常」を、みんなで守るために



徒步の登校は、体を動かして一日を始める準備であり、心を整え、学びに向かう大切な時間でもあったことに、気づかされました。

歩いて登校できることは、多くの方の見守りと支えの上に成り立っています。安全が確保される中で、子どもたちの成長にとって貴重な徒步登校を、これからも大切にしていきたいと考えています。